鹿児島のたばこ栽培地帯における蔬菜栽培の発達の可能性について

服　部　満　江

I. 問　　題

鹿児島の沿岸地帯では，主要換金作物として，たばこ栽培に主力を注いでいる地方が多いが，この地帯はまた，冬期の高温を利用して各種蔬菜類の促成，早熟栽培又は抑制栽培を行うにも好適する条件下に置かれている．そこで若しもこの地帯でその好条件を活用した促成，早熟蔬菜等の計画的な生産に成功し，またその生産物の組織的な販売を実現することができるならば，その結果は，たばこを栽培する場合よりも遙かに大きな収益を収め得ることも考えられる．ために鹿児島の園芸関係者は「なんと云つても，本県の温暖な自然条件を利用して，促成，早熟，抑制のそ菜を，県外移出の目途で積極的に増産する要がある(1)」ということを強調しているのである．

かかる蔬菜の不時栽培の従来の事情をふりかえつて見ると，ここでは既に大正の中期より，南瓜，西瓜，胡瓜等の早熟栽培が奨励された歴史があり(2)，部分的には，例えば指宿等においては，温泉熱利用による茄子の促成栽培が可なり発達した事例も存するのであるが(3)，全体的には，鹿児島の蔬菜の不時栽培は，宮崎の南瓜，熊本の西瓜，或は高知の胡瓜の場合などの如く，特産物として著しい発達を遂げることはできなかつたと言い得よう．

本稿においては，特に温暖な冬期の気温に恵まれた鹿児島の沿岸地帯において，何故に有望と見られる蔬菜の不時栽培があまり発達しなかつたか，またそのことは，従来よりこの地帯に広く行われているたばこ栽培と如何なる係りをもつか，更に今後においてはかかる不時栽培が発達し得る可能性があるかという問題をとり上げ，これを経済的な視角から検討して一応の解答を見出さんとするものである．

その方法としては，先ずたばこ栽培と輸送用蔬菜の不時栽培の経済的な特質を比較し，その結果とこの地帯の農家の経済的な性格を対照して検討する方法を採つた．

(1)　「増産途上の鹿児島県の蔬菜園芸」鹿児島県特産課　昭和26年10月　1頁
(2)　「鹿児島県の蔬菜園芸」鹿児島県特産課　昭和25年11月　34頁
(3)　江口庸雄「蔬菜園芸の発達」（日本園芸発達史）昭和18年5月　267頁

II. たばこ栽培の經濟的特質

たばこ栽培は個々の農家の農業生産をして現状維持的なものたらしめる経済的な特質をもつと概言し得るが，かかる性質は，実はたばこ栽培固有のものではなく，多くはたばこ専売制度によつて附与されたものである．

そこでこの専売制度の下におけるたばこ栽培の経済的な特質の内容に触れて見ると，第1には，たばこ栽培は経済的に安定しているということを挙げることができる．即ちたばこの栽培に対しては許可制が採られる代りに，その生産葉は全て専売公社によつて買取られるので，生産物の換金方法については些かの懸念も要しない[4]．またその買付の方法も安定したものであると為し得よう．例えば納付葉たばこの品質の鑑定は，専売公社の係員によつて一方的に行われてはいるが，併しその判定基準としての標本は予め公示されるのであるから[5]，そこに多少の問題はあつても大きな過誤の発生する虞はない．また納付品の秤量は納付者の目前で行われ，その買付価格は予め等級別に公表されている．而して買付代金の支払は納付直後に行われる．兎に角たばこ栽培はその生産物の販売の面において，著しく安定的であると為すことができる．かかる安定性は専売制度の実施と同時に生じたものであるが，それまでは国内各地において各種の方法を以て生産されまた販売されていたものを，一本の専売制度の下にまとめるためにはこのような安定性を作り出すことは不可欠の要事であつたと思われる．それはまた当時においては進歩を意味するものでもあつた．専売制開始後可成りな年月をおいて，新にたばこ栽培に対する罹災補償制度が附加されたが[6]，それはこの栽培を一層経済的に安定したものとなしたことは勿論である．

たばこ栽培の経済的な特質として，第2には，たばこの買付価格と生産技術の間には統一が失われているために，結果としては，農家の生産上における自主的な発展が生じ難いということを挙げることができる．即ち専売制度の下におけるたばこの栽培には，自由競争的な刺戟がないので，その栽培農家の自発的な生産方法の向上はあまり実現し得ないのである．専売制度実施以前の自由耕作の時代には，銘葉産地とされた地方の生産技術は，確かに自発的な発達を遂げていたが，その一端は次の引例にも窺知できる．即ち「古来の銘葉産地であつた鹿児島の国分，出水，指宿，神奈川の秦野，水戸の水府産地の耕作者中には……乾燥法を工夫して色沢の変化を賞し，或は古代葉を保存して生産年号，氏名，地番，肥料等を記録し，一家相伝の秘法を伝えて銘葉生産にのみ勉めたため，鹿児島，水府の二産地は幹干乾燥に長じ，秦野は軒干法に秀で……[7]」とされているのである．かような生産技術の自発的な発達が実現された主原因は，これら銘葉産地の生産葉が，自由市場においては品質優良の故を以て特に高価に買付けられたことにある．例えば鹿児島の生産葉については「東京，大阪の市場に輻輳する諸国の煙草の中において，薩隅両州の煙草のみ独り高位を占め，価格天下に冠たり．[8]」と述べられているが，その生産技術はかかる高値によつて益々発達したことは容易に推知し得るところである．ところが明治31年以来葉煙草専売制度が実施されてからは，その買付価格は等級別に予め公定されることとなり，また明治34年よりは「葉煙草耕作者は政府の定むる方法及手続に依り耕作を完成するの義務を負ふ．[9]」という法の条項により，生産の方法が買付価格とは独立して指示されることになつたのである．かくして，以前のような価格と技術発達の相互関係はその成立の根拠を失い，爾来たばこ生産技術の発達は，専売当局によつて他動的に指示される如き仕方によつて，実現される傾向を生じたのである．

以上によつて現在までのたばこ栽培は，その生産物の販売が安定している面においても，また生

産技術の自発的な発達を促進する刺戟が少いという面においても，農家の農業生産を現状維持的なものたらしめんとする特質を有していたことを見た訳であるが，かかる特質は，たばこ栽培が既に古い歴史を有することによつて一層強められている．即ち永年繰返されて来たたばこの栽培は，農家に何等新しい工夫を要求するものでもない．またその栽培維持のための組織も既に古くから出来上つている．即ちたばこ耕作組合は，明治34年にたばこ耕作方法が指示されるようになつた当初より，専売当局によつてその設立の必要を認められていたものであり(10)，その後専売局の主導によつて漸次その数を増加し．大正8年以来は専売局の交付金も与えられて(11)，上述指示事項の伝達をはじめとする多くの事業について専売局の下部機構的な活動を行い，たばこ栽培の維持，増大について強力な働きをして来たのである．

(4) 大蔵省専売局「煙草専売史」第1巻 大正4年5月 265，266頁　(5) 大蔵省「明治大正財政史」第9巻 356頁　(6) 同 上 327頁　(7) 福島県煙草耕作組合聯合会「福島県煙草史」 昭和18年7月 959頁　(8) 青江秀「薩隅煙草録」5巻 明治24年2月45頁　(9) 「煙草専売史」 第1巻 681頁　(10)「明治大正財政史」第9巻 302頁　(11) 同 上 305頁

Ⅱ．蔬菜栽培の經濟的特質

本稿で問題としている輸送用蔬菜の促成，早熟栽培は，結局はその栽培農家の農業生産に対して高度の計画性を要求し，またその生産の面においても生産物の販売の面においても，農家間の強力な協同体制を整えることを要求する如き特質を有すると概言することができる．これらの点は，前述たばこ栽培農業が現状維持的であるのに比して対蹠的である．

そこで先ず高度の計画性が要求されることよりその内容を吟味して見よう．そのためには生産物の市場の問題より検討しておく必要があるが，蔬菜の市場は葉たばこの市場と異り，自由市場であり頗る安定を欠いだものである．その一端を示すものとして，昭和7年における宮崎県都農町の南瓜の県外出荷の事例を引くならば「4月下旬3円弱（1貫当）を見ていたものも，1ケ月後には3分の1に，さらに1ケ月後には20分の1に低下し，4月の南瓜1個は5月末の3個，6月末の20個に相当する．(12)」とされる如く，出荷時期の差が出荷蔬菜の価格に大きく影響するのである．かように蔬菜の価格を支配する要因は，独り出荷時期のみには限らないが，兎に角その市場においては自由競争の法則が強く作用する．かかる市場において輸送蔬菜栽培の発達を図る途は，(1) 市場の時期的な独占を狙つて生産を行うか，或は，(2) 優秀な品質の生産品を低生産費で以て生産し，市場における競争力を強化することにある．今一つ(3)これらの諸方途を継続的に実現するためには，市場の信用を獲得する努力が必要である．

次にこれらの個々について簡単な説明を加えて見よう．先ず市場の時期的な独占の問題であるが，これについて江口博士は「輸送園芸の特筆すべき……点は，冬期の温暖な気候や夏期の冷涼な気候を活用して，他に先んじ又は端境期を目標に蔬菜を栽培することである．(13)」とのべておられる．上述都農町の場合でも，早期出荷が如何に有利なものであるかを見たのであるが，それは市場の時期的な独占性に因るものであり「早熟生産地出荷物が近距離生産地出荷物に比し，出荷期の有

利さの故に如何に高額に取引されているかは……[14]」ということが述べられている.

かかる市場独占が許されない時期における輸送蔬菜の栽培は，優秀な品質の生産品を以て市場における競争力の強化を図ることが先ず大切であるが，これについては「遠距離生産地は優位なる交通地位の許にある他生産地との競合を強いられる場合は，何よりもまず商品の優秀さが問題となり……[15]」とものべられている．また輸送蔬菜の遠距離輸送による運賃高は，生産費の引下げによつて補償すべきであり，それに成功することによつて競争力は一層強化されるようになるが，このことは「高額なる出荷諸経費を要する県外移出作物の栽培に於ては，一層生産費の占める割合の低いことが，商品作物の作付面積を高め得る主要条件である．[16]」とされている.

市場における信用獲得の問題は，一面では，或る程度まとまつた量の生産品を毎年継続して同一市場に出荷する問題に繋つており「市場確保こそ有利な蔬菜園芸の第一歩である．そのためには安定した生産地であること，即ち毎年一定生産量を確保し得る生産地になることである．浮動性甚しき産地は市場確保が出来ない．[17]」とされる通りである．更にこの信用獲得の問題は他面では，品質の統一，選別並に検査の励行，荷造規格の統一の諸事項について充分な注意の払われた，市場に歓迎されるような商品としての蔬菜を市場に供給すべきであるという問題にも繋つている．それは即ち「絶対量の不足したときは別として，現在においては一応（全国的には）絶対量はみたされている．企業採算性あるそ菜園芸にするには，当然商品性のより高いものが必要となつて来る．[18]」とされるところである．以上は，輸送用蔬菜の不時栽培は，その生産物の販売をもひつくるめて，高度の計画性を必要とすることを概観した次第である.

次にはこの輸送蔬菜の栽培並にその生産物の販売は，農家間の強力な協同体制の整備を必要とすることの内容を吟味したいが，それは結局，上述の高度計画性の必要より導かれるものである．即ち蔬菜の計画的生産並に販売の実現には，個々の農家の能力並に資力を超える力を必要とするものがあり，これに対処するためには，農家の組織的な活動並にこの活動を一層強化するための協力体制の整備が必然的に行われねばならぬ．宮崎県の蔬菜の不時栽培の発達に対しても，出荷組合の活動が大きな役割を果したことは「県出荷組織の整備が，本県農業，特にその商業的農業の発展に対して劃期的な役割を果した……[19]」とされるところである．この出荷組織によつて「その事業の大要は品種の統一・品等検査・荷造規格の統一・運送機関との交渉・市場配給・更に販売斡旋所，市場駐在員を通じての市況，相場の連絡・問屋，市場の監督・販売代金の回収促進等である．[20]」とされるような広汎多岐に亘る活動が行われたが，かかる組織的な活動なくしては，宮崎の輸送蔬菜栽培も発達し得なかつたであろうとも述べられている．[21]一般にかかる組織なくしては，蔬菜園芸は発達し得ないことはまた「如何なる蔬菜園芸の形態でも生産者の組織が必要，組織なき生産地帯の市場進出は不可能（出来ても不利が多い）[22]」とも述べられており，現実においても戦前にはかかる組織が全国的に増加しつつあつたことは「今より二十数年前までは殆ど全部が個人販売であつたと思う．その個人販売がよくも斯く発展して共同販売になつたものだとうなづかれる[23]．」と述べられていることによつても窺知できる.

要するに輸送蔬菜栽培の経済的な特質は，生産並に生産物の販売の面において高度の計画性と，農家の協同組織による活動体制の整備を必要とするところにあり，その実現を通じて高収益を期待できるのである．そこには広義における技術と価格の統一があり，その中からは自発的な生産方法の発達も生じ得る可能性が大である．その点たばこ栽培が現状維持的で，そのような発達の基盤を殆んど喪失しているのに比して大に異るものがある．

(12) 農業総合研究所九州支所「宮崎県の農業」昭和26年3月 156頁　(13) 江口庸雄「輸送園芸」（新園芸別冊・蔬菜昭和25年5月） 74頁　(14)「宮崎県の農業」 157頁　(15) 同 上 156頁　(16) 同 上 158頁　(17)「増産途上の鹿児島県の蔬菜園芸」鹿児島県特産課 昭和26年10月 2頁　(18) 同 上 2頁　(19)「宮崎県の農業」 146頁　(20) 同 上 166頁　(21) 同 上 166頁　(22)「増産途上の鹿児島県の蔬菜園芸」 2頁　(23) 藤巻雪生「園芸生産統計」（日本園芸発達史 昭和18年5月） 566頁

Ⅳ．たばこ栽培地帯の農家と蔬菜栽培

蔬菜の不時栽培に好適する自然条件をもつ鹿児島県の沿岸地帯において，従来それがあまり発達し得なかつたことについては，経済の面では次の三つの原因を挙げることができる．その第1は，この地帯の農家は従来よりたばこを栽培することによつて一応安定した現金収入を得ることができたので，それ以外に蔬菜栽培等の新収入源を見出すべき必要をそれほど感じなかつたことであり，第2は，主要現金収入源としてたばこ栽培を繰返して来たこの地帯の農家は，商業的な感覚に乏しく，成否不明の蔬菜の不時栽培などには積極的な関心を示し得なかつたことであり，第3は，仮令この事業に積極的な関心をもつものがあつたとしても，高度な計画性と強力な協同組織を実現し得るだけの能力を欠いでいたことである．次にはこれらの個々について簡単な説明を加えて見たい．

たばこ栽培による現金収入の一応の安定が蔬菜の不時栽培に対する農家の関心を消極的なものにしたことは，これを宮崎の蔬菜の特産地の事情と対比することによつて容易に推知することができる．宮崎県都農町の事例では，繭価の暴落による農家の現金収入の激減が蔬菜の不時栽培発達の強い刺戟となつたことは「農家の現金収入の最大の支柱であつた繭価が暴落……全く致命的ともいうべき痛手であつた．……何とかして町の農業に新生面を打開しなければと苦慮していた……A氏が促成蔬菜の普及を考えていた．[24]」「もしも養蚕の不況という契機がなかつたならば，この町の農業がかくの如き園芸農業への道を切り拓くのは，まだまだその時期が遅れたであろう．[25]」と述べられていることによつて明かであるが，鹿児島のたばこ栽培地帯では，かかる刺戟はあまり生じなかつた．たばこの買付価格が一般農産物価の水準を下廻り，その栽培が農家の間で不人気になる傾向が現れると，専売当局は逸早くその買付価格を引上げて来たし，またたばこ耕作組合はその栽培の維持に努力して来た．かかる実情の下においては，この地帯の農家は蔬菜の不時栽培の有利性を説かれても，それに積極的な関心を示さなかつたが，宮崎の特産地においても経済安定農家にはこのような傾向が認められた．例えば住吉村の在来農家の場合について「彼等は新米の移住者たちがもたない水田をもつている．稲作は彼等の食糧としても商品としても永年安定したそして有利な彼等の力である．危険なのか安全なのかまだわからなかつた間は（蔬菜栽培に対して）甚だ憶病で

用心深かつた……[26]」とされるような事情も見られたのである.

次には商業的感覚に乏しかつたたばこ作地帯の農家は，蔬菜の不時栽培の如き商業的な事業には積極性を示さなかつたという問題であるが，これもまた，宮崎の特産地の事情と対比することによつて容易に首肯できる．宮崎の商業的蔬菜園芸の最初の担当者は「千切大根が愛知県よりの移住者によつて導入されているほか，南瓜は高知県農家によつて，西瓜は広島，愛媛県農家によつてもたらされたものである．[27]」とされる如く県外よりの移住者であつたが，彼等がこの事業に着手したのは，彼等がその出身県において，商業的農業を既に見聞していたことに因るところが大であり，このことは「彼等がかかる技術を持ち，意識を持つ故は何であろうか，まず彼等の出身地が先進農業県であるということである．[28]」と述べられている．宮崎でもかかる見聞のない，商業的農業の意識に乏しい在来農家では，蔬菜の不時栽培などは思いも及ばぬことであつたが，鹿児島のたばこ栽培地帯の農家に対しても同様のことを云い得るであろう.

他県より移住して来た宮崎県の蔬菜栽培の先駆者は，最初は資力的に貧弱な者が多かつた．例えば住吉村の移住者については「ここに入植した多くの人たちは，全く裸一貫の二三男か，母村で零細経営のために動きのとれなくなつた人たちであつた．[29]」とされる如きである．それが商業的蔬菜栽培を開拓することができたのであるから，鹿児島のたばこ地帯でこの事業が発達しなかつた有力な原因の一つとして，この地帯の農家の資力的な貧困を数えることは，或は問題であるかも知れない．併し現状維持的なたばこ栽培に永年従事して来た農家には，新しい工夫と組織を必要とする商業的蔬菜栽培を発達せしめる能力が乏しかつたことは，その有力な原因の一つとして数えられるであろう.

以上，鹿児島の沿岸地帯において，従来蔬菜の不時栽培があまり発達し得なかつた経済的原因について吟味したが，次には今後におけるその発達の可能性を検討して見たい．戦前と戦後とでは，わが国農村の諸事情が一変したことは申す迄もないことであるが，上の問題を検討するに当つては，最近における農家経済の窮乏化とその安定性の喪失，耕作面積の縮少並に見聞の広い農家が増加したことに注意して見る必要がある.

即ち経済的な安定を得られなくなつた農家の，現金収入方途の発見に対する関心は最近頓に高まつており，従来のたばこ栽培以外にも何か適当な現金収入源を見出さんと努めている傾向が強い．一方耕作面積は縮少されて来ているので，小面積より多収を挙げ得る作物を選択すべき要請も生じているが，この2つの条件は商業的蔬菜栽培伸展の動機となり得ることは推察するに難くない．而して見聞を広めた農家が増加していることは，計画的であり協同的な活動体制の整備を必要とするこの事業の伸展の可能性を大ならしめているとも解し得よう．現実においても，蔬菜に対する統制が撤廃されて以来，とまと，胡瓜，南瓜，茄子等の促成並に早熟栽培が，県下の数市町村を中心として萠芽的に興りつつある．蔬菜市場の諸条件は，戦前と戦後とでは可なり変化したと云われるので，今後の商業的蔬菜栽培にはこの変化に適応すべき新工夫を講ずることの必要が伴うものと思われるが，この点を認識した努力が重ねられるならば，この萠芽的な現実の伸展は大いに期待し得る

ところであろう.

(24)「宮崎県の農業」 369頁　(25) 同 上 374頁　(26) 同 上 307頁　(27) 同 上 163頁　(28) 同 上 163頁　(29) 同 上 299頁

V. 小　結

鹿児島の沿岸地帯では換金作物として，従来はたばこが多く栽培されているが，この地帯は蔬菜の不時栽培にも好適する条件をもつているので，高収益を挙げ得るものとしてその栽培の発達の必要が強調されている．併し従来はこの地帯では，それは奨励されつつも発達し得なかつた．その原因としては，経済的な立場より次の3つを挙げることができる．(1) この地帯の農家の経済は，従来よりたばこの栽培によつて一応の安定を得ていたし，またたばこ栽培農家は一般に現状維持的な性質をもつていた．(2) たばこ栽培農家は，専売制下においてその生産物の市場の安定性に馴らされているので商業的な感覚に乏しく，蔬菜の不時栽培のような商業的農業には積極性を示さなかつた．(3) 又たといこれに積極化しようとしてもその能力に欠げていた．

ところで以上の如き戦前の事情も，戦後は条件の変化のために変つて来ており，かかる商業的蔬菜の不時栽培の発達の可能性も生じて来ている。即ち現在における農家の経済的な安定の喪失と耕作面積の狭少化は，少面積より多収を挙げ得る可能性をもつかかる商業的蔬菜栽培発展の動機ともなり，また一般に農家の見聞が広くなつて来ていることはその実現の可能性を高めている．現実においても，その栽培は萌芽的に出現して来ているが，努力如何によつてはその発展は大いに期待し得るところである．

Résumé

Possibility of Progress of Vegetable Cultivation in the Tobacoo Planting District, in Kagoshima-ken.

Mitsue HATTORI.

The natural conditions of tobacco planting district in Kngoshima-ken fit for vegetable cultivation, too. And the cultivation is often promoted in the past, but it can't be realized. The causes of this fact can be cited as follows: (1) In this district, cash incomes of farmers [are supported by selling tobacco-leaf. (2) As the stability of tobacco-leaf market is kept intensely, under the Tobacco-monopoly-system, so senses of farmers for commercial agriculture are left out of training. (3) Tobacco planting farmers lacked their abilities for the vegetable cultivation which should be carried out in accordance with the previous plan.

After the War Ⅱ, former conditions about the vegetable cultivation changed largely, and possibility of the cultivation enlarged considerably.

That is, after the War, (1) as stabilities of farmers' economics decreased, so they must discover some cash gaining methods in addition to tobacco plantings.

(2) as their informations are well added, so their abilities for the cultivation certainly increased.